

日本共産党船橋議員団

ミニにゅす

日本共産党国会議員団千葉事務所 ☎043-302-2005
 県会議員 丸山 慎一 ☎047-424-6347
 <市議団控室☎436-3030 FAX420-7201>

市会議員
 石川敏宏 ☎462-4548 事務所☎467-2860 佐藤重雄 ☎432-9872
 岩井友子 ☎438-8647 事務所☎429-2160 関根和子 ☎447-0557
 金沢和子 ☎422-5278 事務所☎440-7950 中沢 学 ☎493-8140
 渡辺ゆう子 ☎462-7273



船橋排水機場・海老川水門

海老川水門 市職員の働きが津波を防いだ

昨年3月11日の大地震で、船橋港（海老川河口付近）でも240cm（18時20分観測）の津波が観測されています。

海老川水門での潮位は最高379cmにもなりました。地震発生時、水門管理事務所の市職員は、海面の波立ちに異変を察知し、ただちに津波に備えて水門を閉鎖し

水害を防ぎました。これは、経験を積んだ職員だからこそできた対応でした。

このとき、現地では護岸のひび割れから海水が噴出して敷地内は水浸し、川沿いの道路を走る車のタイヤは水の中という状況でした。

第2波の前にはマイナス1mの引き波があり、その後30〜40分で水位は5m近く上昇しました。これが満潮時と重なっていたら、さらに2m近く水位が上がリ、津波は護岸を超えたかも知れません。また、水門を閉めなかつたら、津波は市場通りまで達し、住宅にも被害が出ただろうと言われています。

水門の常駐体制が水害を防ぐ

海老川は、かつて本町や宮本地区に床上浸水の被害を繰り返し起

こしました。現在では、河川改修や調整池の整備、水門・ポンプの設置で改善されました。

水門は県の施設で管理は船橋市が行なっています。平日の日中は市職員、夜間休日は委託業者が24時間潮位の観測を行っています。潮位に合わせて水門の開閉や大型ポンプ2基を使って内側の河川水を水門外に排出し、河口の水位を管理しています。

気圧や風の影響で、潮位は気象庁発表の予測より高くなります。大雨が心配されるときは早めに水門を閉め、ポンプを使って内側の水位を下げるなど、常時潮位を監視しての対応が欠かせません。

コスト削減を理由に自治体業務の民間委託が増やされています。競争入札で業者は入れ変わり、経験を積み重ねていくことはできにくく、行政にも経験が蓄積されなくなってしまう重大な問題があります。

ペットボトル「ステーション回収」の裏表

船橋市は、10月からペットボ

トルのステーション回収を開始する、と広報でも報じました。

これまでの拠点回収と比較して回収量は大幅に増えることになりました。

この回収方法の変更は、一面

では資源を「大切に使う」という良い面があることは評価できます。しかし、そのための費用負担を考えると、あまり喜べないのです。

処理方法は2つです。

1つは、これまでと同じ「燃えるゴミ」として処理した場合の費用1トン当たり約3万6千円。もう1つが、10月から始めるステーション回収の場合です。ステーション回収では、1トン当たり15万円と推定されていますから、4倍の費用がかかりま

す。

一年間を通してステーション

回収をした場合、回収量を1200トンとして、費用の比較をしますと4千4百万円の費用が1億8千万円と1億4千万

円も負担がふえるのです。

この費用の差を税で負担することの合理性をどう判断するか、と言う問題が残ります。どうでしょうか？

普及し始めた時から

**「自治体負担で」には
異論があった！**

ペットボトルは清潔で便利な

ことから「急速に」「大量に」普及し始めました。ところが使い終わった瞬間から「ごみ」になってしまうのです。

ゴミの処理は地方自治体の責

任で処理することになってい

ますから、焼却処分をするか埋め立てるかということになり、まず東京都が異議を述べました。

生産者の責任で回収処理をするのが当然ではないのか？と。

ところが、国は生産者の責任を認めることはせず、一方的に自治体の負担とさせたのです。

あまりにも大量のペットボト

ルが焼却処分されるのを見て「資源のムダ使い」ではないかということから、「回収を」という意見も出るようになり、自治体

でも「回収は良いことだが、誰が費用を負担するのか」「税金の投入が許されるのか」と、逡巡してきたのが歴史です。

使用方法を限定し

**アルミ缶を主流にする
という方法も……**

ペットボトルは可燃ごみとし

て燃やし、熱を発電に使用する

ことで利用することも一つの方法です。

船橋市の南部清掃工場ではこの方法で年間約498万8千キロワット時の発電をし、年間約4千900万円で売りました（平成22年度）。

もう一つは、ペットボトルの使用方法を大幅に制限し、利便さでは少し劣るかも知れませんが、アルミ缶に置き換ええるという方法もあるかもしれません。

アルミ缶も、今では大量に流通していますが、回収費用はアルミが資源として取引されることで、市の負担は収集費用のみで、流通の中で解決しているのです。

いずれにしても、市が採れる手段は限られています。国の責任を追及しないわけには行きません。